

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・価格訴求を行った低価格商材、企画催事への顧客反応が良く、店舗の集客増に結び付いている。顧客の購買意欲を後押しする仕掛けの成否によって、潜在的な需要が左右されている状況にある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上、来客数ともに前年から5%程度ダウンしているが、販売量は前年比101.4%とわずかだが前年を上回っている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車効果と9月決算を控えて、当社の販売台数が伸びており、全体的には景気はやや良い。ただ、販売台数を伸ばしている営業マンがいる一方で、販売に苦戦している営業マンもいるため、絶対的に景気が良いということまでは回復していない。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・客1人当たりの単価が高くなっている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・例年であれば、夏祭りの後は、極端に売上が落ちるが、今年は極端に落ちることなく推移している。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・新商材の発売に伴い、販売量が前年と比べて大幅に伸びている。来客数も一部の店舗を除けば、前年を超えており、確かに流れ的には景気が良くなっている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・9月の利用客数は25日時点で前年比107.3%と前年を上回っている。この増加傾向が今年度当初から継続していることから、景気はやや良くなっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応をみると、先行きに向けての希望を話すことが多いなど、景気は変わらない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・8月の外国人観光客の売上が前年を大きく下回った。ただ、前年が異常に良かっただけで、例年8月はピークシーズンで航空機もホテルもバスも高単価となるため、外国人比率が下がる傾向にある。一方、国内観光客の売上は、北海道新幹線効果のためか、例年を若干上回って推移している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・夏と比べると客足は少しずつ落ちてきているが、客単価が上がっており、全体としては変わらない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・やはり台風の影響が少し出てきている。例年であれば、これくらいの時期に農作物の収穫が終わった客が道東から来てくれるが、今年は後始末で来ることができないとの連絡があった。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・前月、前々月と比べて、一定の販売量を確保できているが、今一つ力強さに欠けている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・外国人観光客のマイナス分を地元客の売上で補いきれない状態が続いている。来客数は前年比90%台前半で推移しており、客単価も前年から1,861円のマイナスと低下したままで、マイナス幅が拡大している。ただ、困り込みのできている顧客による買上は若干のプラスとなっている。
		百貨店（担当者）	販売量の動き	・秋物などのシーズンアイテムについて、販売量、売上とも低下気味である。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・季節の変わり目のこの時期は、日々の気温や天候に左右されることが多く、特に今年は例年より気温が高めに推移していることもあり、秋物や冬物衣料の動きが鈍くなっている。ただ、気温が下がると防寒衣料への関心が一気に高まるため、現状は先行きを注視している状況である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・8月の台風の影響により、青果物を中心に価格が高騰しており、販売量も客単価も前年を大きく下回っている。ただ、全体としては3か月前と景気は変わらない。
	スーパー（役員）	単価の動き	・来客数は前年を確保できているが、客単価が前年から0.5%低下している。台風被害の影響による相場高や値上げ商材が数多くあることなどで商品単価が上昇していることから、低単価志向に移行している客が増加している。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年の大型連休の反動はあったものの、気温が高く推移していることから、来客数はここ数か月で最も回復している。ただ、たばこや酒の販売量が減り、客単価が低下していることから、来客数が回復しているのに対して売上は横ばいのみである。	

	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・来客数が前年を下回る状況が続いている。
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・来客数は前年を下回ったものの、マンションなどのエアコン取付けなどが目立ったことから、全体としては3か月前と変わらない。
	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・毎週土日のイベントへの客の来場が良くない。商談になっても成約に結びつくまで時間がかかり、中断になるケースも少なくない。消費者マインドの低下が感じられる。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・来客数、販売量とも減少気味であり、上昇気運がみられない。
	自動車備品販売店(店長)	競争相手の様子	・冬タイヤの販売量が前年の85%と大きく数字を落としている。競合店も同様の状況であり、前年の暖冬が客のイメージに残っていることで購入に奥手な状況となっている。
	その他専門店 [医薬品](経営者)	お客様の様子	・前年があまりにも良くなかったため、単純に比較できないが、今年は前年よりも良い状態で推移している。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・前月に続き、スタッフ減少の影響で来客数を調整している。そのため、シルバーウィークの稼ぎ時に前年を大幅に下回った。しかしながら、全体売上は前年比マイナス5%にとどまっている。
	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・9月はシルバーウィークが好天だったため、客足が伸びなかった。月全体の来客数はぎりぎり前年並みに収まったが、連休前後は特に閑散としていた。また、ここ数年、さっぽろオータムフェストの開催時期はランチを中心に来客数が伸びにくい状況にある。当地ではランチの低価格競争が続いていることで、昼営業を止める店も出てきている。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・国内客、外国人客ともにグループ旅行がマイナス傾向にある。インターネットでの個人予約で若干のばん回がみられたものの、トータルでは横ばいで推移している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・9月の当地は暖かく、雨の日も少なかったこともあり、タクシー1台当たりの売上はほぼ前年並みであった。ただ、乗務員不足で稼働率が落ちているため、会社の売上はマイナスとなった。
	タクシー運転手	来客数の動き	・観光関係での利用はほぼ前年並みであったものの、イベント関係での利用が順調であった。
	タクシー運転手	来客数の動き	・当業界は特に夏場の売上に期待が持て、この期間の客の動きによって収入が左右される面がある。今年は3か月前と同じような来客数で推移しているため、もう少し、期待感があったが、地元客の動きが相変わらず鈍く、増収とまではならなかった。地方では景気回復が遅れており、全体的に先行きがはっきりとみえていないのが現状である。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・来客数、売上ともに堅調であり、毎月ほぼ同じような水準で推移している。
	美容室(経営者)	販売量の動き	・売上は前年とほとんど変わってない。また、この3か月についても売上はほぼ横ばいで推移している。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・観光客が引き続き増加傾向にある。外国人観光客は減ってきているが、国内観光客は増えている。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・ここ数か月、分譲マンションのモデルルームを訪れる客の様子に大きな変化はみられない。また、モデルルームを訪れる客の数もこの数か月あまり変化がない。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数が減少している。また、買上単価の二極化が進んでいる。
	百貨店(営業販売担当)	来客数の動き	・地域的に8月の台風被害の影響が尾を引き、被害の大きい地区の売上が大幅に減少している。また、気温が高く推移したことでファッション関係に悪影響が生じている。
	スーパー(店長)	競争相手の様子	・価格の打ち出しが多くなった。
	スーパー(役員)	お客様の様子	・例年以上に観光関連のイベントが数多く開催されたことで、イベントに人が流れており、一般客の消費が苦戦している。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・来客数の前年比が月を追うごとに悪くなってきている。
	コンビニ(オーナー)	来客数の動き	・9月の売上は前年比96%となっており、6月にオープンした競合店の影響を受け続けている。

	衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・台風被害による後遺症がみられる。北海道では交通機関や農業、水産業のすべてに対して影響が出ており、催事でも台風被害の話題が多くみられ、売上が減少した。
	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・客単価は横ばいだが、買上客数が前年比マイナス8%と大きな落ち込みをみせている。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・これといった目玉がないため、販売量が下降気味である。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、地域全体に停滞感がみられる。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・8月の台風による農業関係の被害及び鉄道不通などの交通障害の継続により、野菜高騰などの物価上昇に対する客の警戒感が強く、観光需要の動きが鈍っている。
	旅行代理店(従業員)	それ以外	・台風直撃の影響により、札幌と当地を結ぶ特急に運休が生じており、それに伴う払戻しなどが多数発生した。現在は臨時列車による運行が行われているものの、一部でバスによる代行輸送が行われていることで、通常と比べて約2時間も移動に時間がかかるため、パッケージツアーでの利用ができない状況にある。少なくとも11月末までは特急の運転再開が困難とみられていることから、しばらく状況は変わらない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・売上について前年比の横ばい状態が続いている。
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・新商材の販売については予約から好調なものの、都市部での伸び悩みが想定以上となっている。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・8月の売上ダウンの影響が9月も続いている。
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・観光シーズンも終盤に差し掛かったことに加えて、今年は台風などの影響で特に9月の天候が悪化したことから、輸送量が減少している。
x	商店街(代表者)	来客数の動き	・前月末の台風が大きく影響している。被害にあった地域からのバス利用客が激減しているとともに、鉄道が不通のため、道外及び道央圏からの観光客も2割前後減少している。また、周辺住民においても、天候不順の影響を受けて出控えする傾向があり、例年の9月と比較すると最寄品を中心に売上が減少している。
x	百貨店(役員)	お客様の様子	・店の来客数が著しく低下している。
x	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・海水温が下がらないことで、さんま、さけ、ほっけなどの近海魚が周回してこないため、船積商材が動かず、当地区の漁業関係はすべて悪い状況にある。そのため、スーパーを中心とした安い価格を打ち出している業態に客が流れている。また、競合店の出店も続いており、限られたマーケットを取り合いしている状況にある。
x	観光型ホテル(役員)	来客数の動き	・円高の影響で東南アジアからの外国人観光客が大きく減少している。さらに、台風被害によるキャンセルに加えて、風評被害も大きく、予約数が伸びてこない。
x	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・農家や関連企業など、台風被害を直接受けた客の旅行やイベントのキャンセルが相次いでいる。また、直接的な被害を受けていなくとも、鉄道の不通により取消しを余儀なくされた客もみられる。さらに自粛という理由で旅行を中止、延期する客も発生してきており、販売額にとっても大きな負の影響を与えている。
企業動向関連 (北海道)	-	-	-
	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前の6月は販売量が前年比プラス1%だったが、9月は前年比プラス17%と伸びている。
	建設業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・10億円程度の建築工事入札で低価格応札が少なくなっているなど、建設会社の受注量がそこそこ満たされてきた兆候が感じられる。
	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量、案件数が3か月前と比べて微増している。金額も大型化しており、景況感は引き続きやや良い状況にある。
	その他サービス業[建設機械リース](営業担当)	受注量や販売量の動き	・補正予算の執行による工事や台風による水害復旧工事が増加傾向にある。

	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・公共工事が本格化し、ようやく活況となってきている。ただ、人手不足が深刻である。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前よりも売上は増えているが、季節的な要因によるものであり、数字自体は前年と変わらない。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年は特に台風などによる災害が多く、経済にも悪影響を与えている。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・台風被害に対する土木復旧関連品輸送の引き合いが増えているなど、スポット需要への期待が高まっているものの、レギュラー貨物に極端な増減はみられないため、販売量に変化がない。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の経済活動自体は衰退していないものの、台風被害で物流、流通に支障が出ている部分があり、先が見通せない状況にある。
	司法書士	取引先の様子	・やや良いと回答するほどではないが、例年と比べると不動産の売買取引、建物の建築などが若干上向いている傾向があり、多少景気が良くなっている。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比べて、不動産の売買、建物の新築が減少している。
	コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・客との対話のなかで、首都圏では東京オリンピックの効果が出ているとの話がよく出てくるが、北海道では効果が生じていないとの意見が多くみられる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・6月に比べると、7～8月の売上はそれぞれ15%程度の落ち込みがみられたが、9月は通常の状態に戻っている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・公共投資による景気の下支えはあるが、度重なる台風被害によって、これまで道内景気をけん引してきた観光関連を含む幅広い業種に悪影響が出ており、現状の道内景気はやや悪化している。
	司法書士	取引先の様子	・依然として景気回復には至っていない。新築建物の単価が上昇していることで、ローンの借入金額も多額になってきており、借入者が減少している。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	それ以外	・台風被害の影響が生じている。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・中途採用のニーズが高まっている。特に営業職、介護職の求人が増加している。また、コンビニエンスストア、100円ショップなどの店舗開設が多く、陳列業務などの短期の派遣ニーズが高まっている。一般派遣においても事務職のニーズが高まっており、企業業績に明るさがみられる。一方、景気回復に伴う有効求人倍率の高まりにより登録者数は微減で推移している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・北海道の有効求人倍率が過去最高となり、各業界の人手不足が深刻化している。外国人観光客の増加により、宿泊業及び清掃業を始めとしたビルメンテナンス業の求人が増加している。なり手が少ない介護や建設、運輸なども求人意欲は依然堅調である。全体の求人数は前年と比べて増加している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告売上で前年同月8位の加工製造卸が3倍近くまで伸びており、派遣に次ぐ売上となったほか、環境衛生、理美容も前年を大きく上回った。全体でも前年比109%となり、派遣、医療、飲食などの落ち込みの大きかった業種の分をカバーしている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年比マイナス14.0%と3か月連続で前年を下回った。月間有効求人数は前年比マイナス0.2%と13か月ぶりに前年を下回ったが、有効求職者数の減少が続いていることから、有効求人倍率は前年を0.02%上回った。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・観光客を多く見かけるなど、観光関連が好調であるが、観光スポット以外の商店街などは活気がないため、全体的には変わらない。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・新卒学生の就職活動のスピードと活動量の動きが鈍いため、各企業では予定人数を採りきれない状況にある。9月も後半になり、当初はそろそろ採用活動を終了する企業が増えてくるとみていたが、企業側の採用意欲はまだ衰えておらず、12月まではこうした傾向が続く。

	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・連続4回にわたる台風被害が基幹産業の農業に与えた影響が大きく、それまでの活気や先行きへの期待感に少なからず影を落としている。
	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・個人消費の伸びが鈍化していることで求人件数の減少がみられる。企業の人手不足感は強いものの、これといった打開策が見いだせないまま時間が過ぎてい
	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・有効求人倍率が78か月連続で前年を上回っているものの、新規求人数が4か月連続、月間有効求人数が6か月連続で減少している。特に新規求人数は全体で3.7%減少するなかで、正社員求人が13.0%も減少している。
x	-	-	-